

HS22-ネットワークが再認識される現象：

SAN Boot 環境での対応策について

HS22 を使用していて、SAN ブートでの予備機への切り替えやシステムボードの交換などを行った場合、その後の OS 起動時にネットワークの構成が再認識され、IP アドレスやチーミング等の設定が再度必要になる場合があります。

当文書は下記内容を参照しています。最新情報は下記文書をご確認いただきますようお願いいたします。

New system board will cause Microsoft Windows to prompt for drivers - Servers

<http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?brand=5000008&lnocid=MIGR-59548>

以下の情報も併せてご参照ください

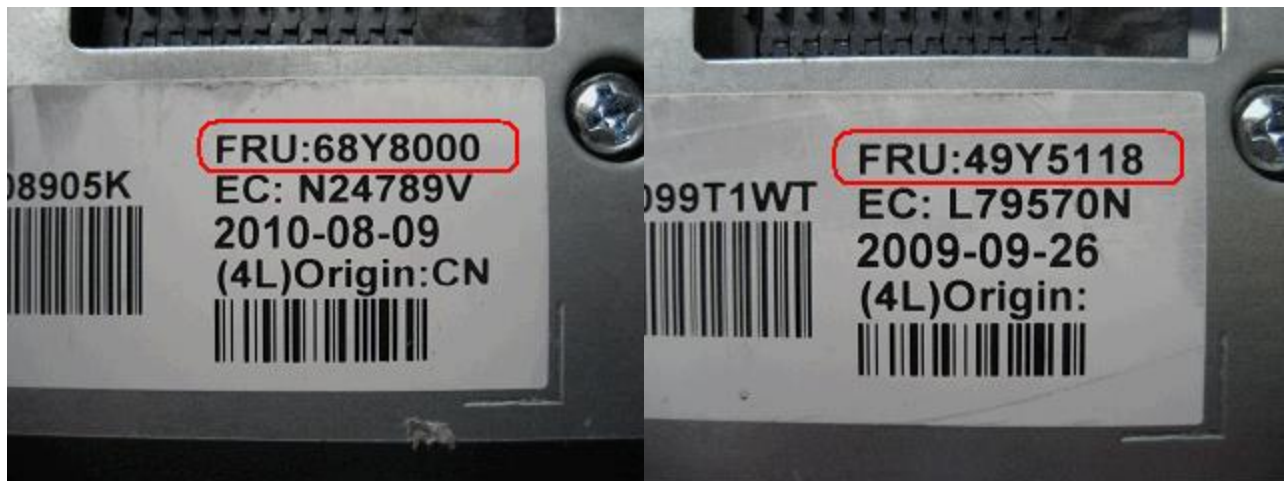
BladeCenter-ネットワークが再認識される現象：SAN Boot 予備機への自動化環境での対応策について

<http://www-06.ibm.com/jp/domino04/pc/support/Sylphd07.nsf/jtechinfo/SYJ0-017DEEB>

【対応策概要】

HS22 の System Board は製造時期により異なる Revision の Intel Chipset を使用している場合があり、作業前、作業後のサーバーが異なる Revision の Intel Chipset を搭載している場合に、当現象が発生します。

HS22 の背面に以下のような FRU 番号が記載されており、この番号が異なる機器間で再現する可能性があります。



チーミングを未使用時

事前に異なるネットワークデバイスの認識を手作業で行うことで、予備機への切替えに対応する。

チーミングを使用時

チーミング使用時には上記方法では対応できないため、事前に取得したチーミング設定をリストアすることで、予備機への切替えに対応する。

※注 当ガイドで記載する方法は、下記バージョンの Driver software にて動作を確認しております。

Broadcom Corporation Broadcom Ethernet Software CD release T5.2.4.7

http://www-933.ibm.com/support/fixcentral/systemx/quickorder?parent=ibm~BladeCenterHS22&product=ibm/systemx/7809&&platform=All&function=fixId&fixids=brcm_dd_nic_vt5.2.4.7-cd_anyos_32-64&includeRequisites=1&downloadMethod=http&source=fc

【対応策詳細】

1. チーミングを使用していない場合（各物理 NIC にアドレスを設定している場合）

1-1. OS 導入

WindowsOS を本番機に導入します。

1-2. 本番機での導入、IP アドレスの設定

NetworkDriver、IP アドレスの設定を行います。

1-3. 予備機への切り替え、

OS をシャットダウンし、予備機へ切り替えます。

1-4. 予備機での IP アドレスの設定

ネットワーク接続とスイッチベイの対応確認方法

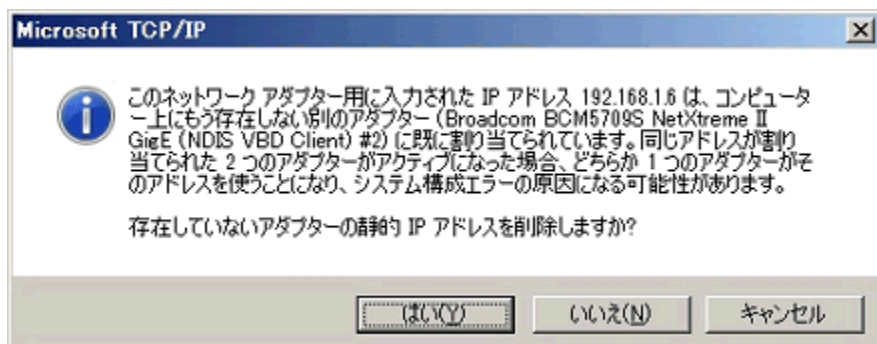
新規に認識されたデバイスとスイッチベイの対応はローカルエリア接続のプロパティより確認してください。

ローカルエリア接続 x のプロパティからデバイスの「構成」を選択し、PCI デバイスの「場所」から判別します。

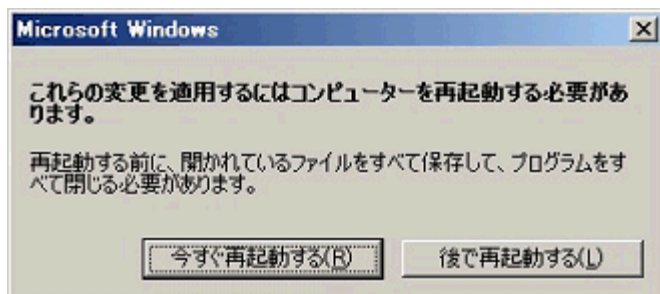
PCI バス 16,デバイス 0,機能 0 が上側スイッチに、PCI バス 16,デバイス 0,機能 1 が下側スイッチに接続します。



※IP アドレス設定後ウインドウが開き、下記メッセージが表示されますが”いいえ”を選択してください。



※以下のようなメッセージが表示される場合、OS を再起動します。



1-5. 本番機への切り替え、

OS をシャットダウンし、本番機へと切り替えます。

ネットワークアドレスが使用できる状態になっていることを ipconfig などを確認してください。

2. チーミングを使用している場合（仮想 NIC にアドレスを設定している場合）

2-1. OS 導入

WindowsOS を本番機に導入します。

2-2. 本番機での導入、BACS (Broadcom Advanced Control Suite) でのチーミング、IP アドレスの設定

NetworkDriver、BACS のチーミング設定、仮想 NICIP アドレスの設定を行います。

2-3. BACSLI での構成情報バックアップ

コマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダまで移動します。

C:\Program Files\Broadcom\BACS

移動後、下記のコマンドを入力し構成情報のバックアップを行います。

(今回の例では、C ドライブ直下に作成した temp フォルダに構成情報をバックアップしています)

C:\Program Files\Broadcom\BACS>**BACSLi.exe -t team "save -f BDF c:\temp\backup.bcg"**

2-4. バックアップファイルの確認

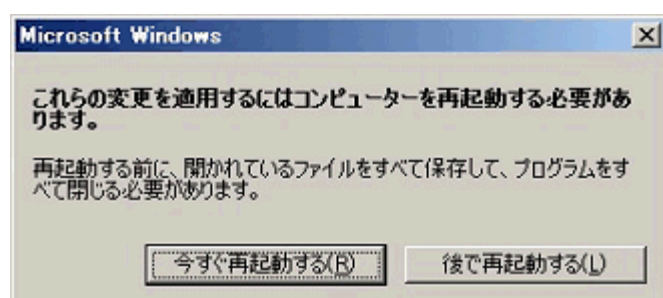
temp フォルダ内に backup.bcg ファイルが作成されている事を確認します。

2-5. 予備機への切り替え

OS をシャットダウンし、予備機へ切り替えます。

2-6. OS の再起動

OS 起動後、以下のようなメッセージが表示される場合、OS を再起動します。



2-7. BACSLi での構成情報リストア

コマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダまで移動します。

C:\Program Files\Broadcom\BACS

移動後、下記のコマンドを入力し構成情報のリストアを行います。

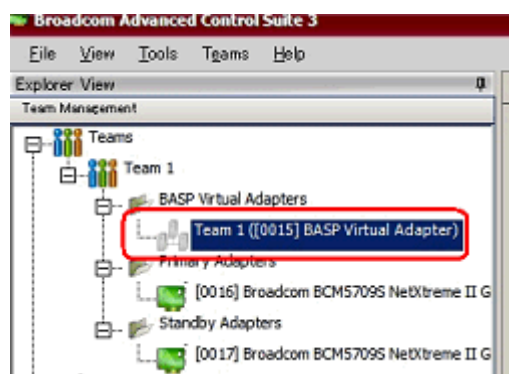
```
C:\Program Files\Broadcom\BACS>BACSLi.exe -t team "restore c:\temp\backup.bcg"
```

2-8. チーミングおよび IP アドレスの確認

BACS を起動し、チーミング構成が正しくリストアされている事を確認します。

コマンドプロンプトで ipconfig を実施して IP アドレスが正しくリストアされている事を確認します。

構成情報のリストア後、下図のようにチームがグレースアウトしている場合、OS を再起動してから再度構成情報のリストアをお試しください。



2-9. 本番機への切り替え

OS をシャットダウンし、本番機へと切り替えます。

2-7 以降の手順で構成情報のリストアを実施してから、ネットワークアドレスが使用できる状態になっていることを ipconfig などで確認してください。

以上

免責

当内容は、お客様、販売店様、その他関係者が、System x, Flex System などを活用することを目的として作成しました。

詳細につきましては、URL (<http://www.lenovo.com/legal/jp/ja/>)の利用条件をご参照ください。

当技術資料に含まれるレノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社および Lenovo Enterprise Solutions (以下総称して、LES) 以外の製品に関する情報は、各提供ベンダーより提供されたものであり、LES はその正確性または完全性についてはいかなる責任も負いません。

当技術資料の個々の項目は、LES にて検証されていますが、お客様の環境において全く同一または同様

な結果が得られる保証はありません。お客様の環境、その他の要因によって異なる場合があります。お客様自身の環境にこれらの技術を適用される場合は、お客様自身の責任と費用において行なっていただきますようお願いいたします。

2015 レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社